

R3 ティーaching・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科
学長・教授 野口 一夫

1 教育の責任

令和3年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
保育内容 環境	前期	1年	演習	33名	1・2組	
	前期	1年	演習	33名	3・4組	
環境の指導法	前期	2年	演習	33名	1・2組	
	前期	2年	演習	36名	3・4組	
保育・教職論	後期	1年	講義	66名		

学長として

経営方針の設計

○入学者増と補助金確保

- ・通信制高校へのアプローチ
- ・OCにおける個別相談の強化
- ・改革総合支援事業（補助金）タイプ1（特色ある教育の展開） タイプ3（地域社会）
- ・TJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）の推進

○ウイルス危機への対処

対面授業 4月より実施 始業9：20～ 90分授業

大型教室での授業（芙蓉館・カフェテリア等）

○ヒアリングの実施・充実

専任教員 年2回 非常勤講師 年1回 事務局員 年1回

○公務員（保育士・幼稚園教諭）への挑戦 個別面接指導

2 教育の理念

2017(平成 29)年 3 月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成 30 年 4 月から施行された。

私たち大人は、乳幼児期の子どもの世界から実に多くのことがらを学ぶことが多い。様々な自然の生き物に強く関心を持つ子どもからは、四季の変化や、自然界の魅力に目を向けさせてもらっている。乳幼児の教育・保育のあり方の原点として、レイチェル・カーソンの「**センス・オブ・ワンダー**」の言葉をかみしめたいものである。

1 人ひとりの子どもにとって、環境とは、地域社会全体、あるいは地球環境という大きな環境という意味と、園や家庭、地域の身近な環境という意味もある。そういう意味では、環境には「広がり」と「重なり」があると言えるだろう。また前記の 3 つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを保育者養成校として追究していきたい。

乳幼児期の教育・保育を、保育内容「環境」として学ぶことは、「身近なところ～足元」から「世界に目を向けて～地球規模で考え」という、ロマンあふれる創造につながっていくことを期待しながら。

「センス・オブ・ワンダー」

Sense of Wonder

美しいものを美しいと感じる感覚

新しいものや未知なものにふれたときの感覚

思いやり 憐れみ 讃嘆や愛情などの さまざまな形の感情

それらがひとたびよびさまされると

人はその対象となるものについて

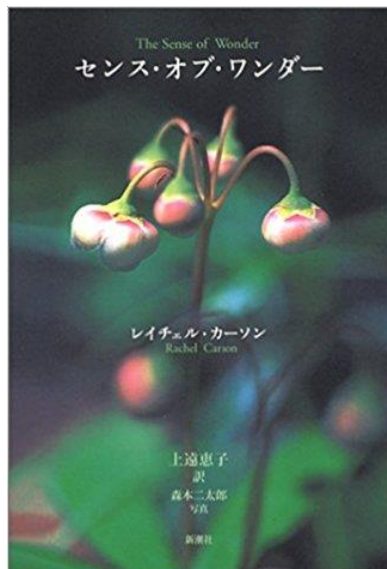
もっとよく知りたいと思うようになる

わたしたちの多くは、まわりの世界のほとんどを視覚を通して認識しています。しかし、目にはしていながらほんとうには見ていないことも多いのです。見すごしていた美しさに目をひらくひとつの方法は、自分自身に問いかけてみることです。

「もしこれが、いままでに一度も見たことがなかったものだとしたら？ もしこれを二度とふたたび見ることができないとしたら？」と、

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない・・・と言い切るカーソン

レイチェル・カーソン著「センス・オブ・ワンダー」より



Natural Message



埼玉景観賞 1989年受賞
～ループルを思わせるホール入口～

「遊ぶ」と「学ぶ」

子どもは、とにかくよく遊ぶ。そして好奇心が旺盛である。いろいろなものに興味を持ち、いろいろなことをしたがる。そして、すぐに大人のマネをしようとする。じゃれあったり、兄弟姉妹でよくケンカもする。一日中、そうやって遊んで過ごす。しかし「遊ぶこと」は子どもにとって生きるための知恵を「学ぶこと」なのである。

それに比べほとんどの生物は子育てすることはない。チョウやトンボなどの昆虫は、卵を産んだら、産みっぱなし。卵から産まれた小さな幼虫は、何の保護もなく自分の力だけで生きていかねばならない。「子どもを守り育てる」ということは、強い生物だけに与えられた特権と言える。

のびのびと「遊ぶ」、時に真剣に「遊ぶ」ことを通して、子どもの感性に気づき、子どもの心とからだに寄り添える力を身につけて欲しい。子どもたちの遊び環境や、遊びの中にある仲間関係や人間関係についても、体験を通して自分のからだで理解して心で学んでいく、それを知識と結びつけ保育者としての専門性と感性を身につけていく。これが本学の「遊んで学ぶ」の目指すところである。

3 教育の方法

(1) 保育内容 環境

【ねらい】

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に行い体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

（２）環境の指導法

【ねらい】

領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関り、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。

【到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

（３）保育・教職論

【ねらい】

保育士や幼稚園教諭を目指すために、保育者とは何か、今保育者に求められている資質や能力は何か、そしてその職務の内容等について、関連法規等を踏まえて検証することができる。

【到達目標】

保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）に対する意識を高め、その違いや共通点を明らかにし、さらに保育者としての専門性の高揚を図り、連携・協働の重要性を理解することができる。

4 教育の成果、評価

令和３年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケート（E d u N a v i）を実施。

問１ ・欠席又は遅刻・早退をせずに受けましたか。

- ・私語を慎んで授業を受けましたか。
- ・授業の要点を配布プリント等にとっていましたか。
- ・シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
- ・予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。

問２ ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。

- ・授業内容のレベルは適切でしたか。
- ・授業の進度（速さ）は適切でしたか。
- ・この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。

- 問 3 ・教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
・授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。
・教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
・教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
- 問 4 ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。
- 問 5 ・授業の感想を自由に述べてください。

(1) 保育内容環境

5. 0 (満点)

問 1 平均 4. 5 問 2 平均 4. 4 問 3 平均 4. 5

問 4 平均 4. 4 問 5 平均 4. 4

問 5 自由記述

- 授業でたくさん樹木、草花などを観察しスケッチしたため、それぞれの特徴がずっと頭の中にいまだに残っている。(多数)
- ササ舟づくり、子どもの頃に作った経験がありましたが、もう一度作ることができてよかったです。
- 学長先生が自らの体を使って、木の生え方を表現してくれて、とても楽しい授業でした。
- 実際に植物を観察し、触ったりできて、山短の特徴がよくわかりました。
- 今まで、草花、樹木、鳥の鳴き声など全てに興味がなかったのですが、この授業から自然についての知識が増えたと思う。
- 特に印象に残ったのは、指導案づくりの過程で、実際にフルーツバスケットやおおかみ椅子取りゲームがとても面白かったです。
- 身近なものを使った遊びを実戦形式で、ものに触れ、ものの遊び方、特徴を学習できた。
- 山短の恵まれた環境の中で実際に体験し、鈍っていた五感を学園生活の中で磨き直し、子どもに寄り添える保育者を目指したい。
- 山短特有のナチュラル保育検定で、今まで学習した草花、樹木について確認できたことが良かったです。
- やはり実物に触れることができるのは確かな知識として大切だとわかりました。

(2) 環境の指導法

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 2 問2 平均 4. 1 問3 平均 4. 2

問4 平均 4. 1 問5 平均 3. 9

自由記述

- 体験型で、楽しく自然遊びや野菜について学ぶことができた。
- 自分たちで育てた野菜を食べることで、食育につながることを学んだ。(多数)
- 野菜バーベキューのおかげで苦手な野菜も食べることができました。
- とても楽しい授業でした。(多数)
- 子どもの気持ちになって楽しむことができました。
- 実際の自然環境に触れ、実践力が身につくと感じた。
- 実際に折り紙や発泡スチロールペーパーでの工作、現場で生きる教材と感じました。
- 山短の四季折々の自然環境、それを生かした活動、本当に良かった。

(3) 保育・教職論

後期

5 教育の改善に向けた今後の目標

(2) 保育内容環境

短期的目標	○保育内容環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目。体験型で実物に触れる貴重な科目。 ○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。普段からの情報共有が多い常勤と非常勤の違いが出るところである。
-------	---

長期的目標	○Think globally, act Locally “地球規模で考え、足元から行動せよ” “思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて” というように解釈されている。 SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、「水問題」「フードロス」「プラスチックによる海洋汚染」等環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切で守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーションを図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めたいものである。
-------	--

（２）環境の指導法

短期的目標	○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。普段からの情報共有が多い常勤と非常勤の違いが出る場所である。
長期的目標	○昨年度より「生活」はなくなり、「環境の指導法」となる。生活の意図している内容は一部引き継ぐ。

	○ 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。 ○ 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。
--	---

(3) 保育・教職論

短期的目標	
長期的目標	

6 その他

(1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識やあそびに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。令和元年度よりテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。令和二年度はコロナウイルス感染の状況から、実践が一回となった。



オリジナルテキスト



フィールド学習

(2) 公務員（保育士・幼稚園教諭）試験への指導とアドバイス

東京都を含め、県内市町村の公務員試験の募集要項にのっとり、合格論文の書き方、面接の受け方、適性検査、一般教養・専門試験への指導を徹底 個別面接指導

その結果OGを含め、平成30年度 5名、令和元年度 7名の合格者を出すことができた。令和元年度は1名 令和2年度 2名 令和3年度 取組中

Be natural

本短大のキャッチコピー



ナチュラルロッジ



ナチュラルファーム

令和3年度 第一回保育検定フィールド問題

○草花

ヒメジョオン ドクダミ ネジバナ ブタナ
ナス ピーマン シシトウ



○樹木

ユズリハ
クスノキ
ダイオウマツ
アジサイ
クヌギ コナラ
フヨウ カイノキ



セミの鳴き声を聞いて種類を答えなさい。

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()



アブラゼミ



ツクツクボウシ



クマゼミ



ヒグラシ



ミンミンゼミ

学籍番号	氏 名	評 価

7 エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育内容環境、環境の指導法 保育・教職論）
- (2) 授業時配布プリント
- (3) 試験問題
- (4) 成績集計結果
- (5) ナチュラル保育検定
- (6) 公務員コース年間計画